

令和7年度

東みよし町立 三加茂中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 失敗を恐れず多様な事柄に粘り強く挑戦し、
確かな学力を身につける生徒の育成
- ② 探究心に燃え、自ら学び、自ら考える心豊かな生徒の育成

校長

岡村 美紀

学力向上推進員

久保美智子
校長 岡村美紀 1年担当 岡 真里子
教頭 細川誠治 2年担当 久保美智子
教務 堀江直美 3年担当 木村 真理

【小中連携における共通の取組】

自主的・意欲的に取り組む生徒を育てるための「めあて」と「振り返り」の工夫
～より効果的な「めあて」「振り返り」を求めて～

(ポイント)

- (1)生徒を理解できているか
(3)「わかった」「面白い」が実感・体験できる授業を
- (2)教えなければいけないことがわかっているか
(4)自主的・意欲的な生徒の姿を描けているか

【各校の取組状況の把握について】

小中合同研修会(8月・11月・2月)にて成果と課題について共有し、取組状況を把握する機会とする。
授業参観や研究授業によって生徒の変容を見取り、教師の指導力向上の機会とする。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(１) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	8月中旬 中間期の見直し	1月末 達成状況(評価)	2月末 次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が基礎的な知識や技能の定着のために自主勉強などで努力できている。 タブレットを活用する学習・リスニング学習で基礎基本を主体的に学ぶことができている。 ●集中力が長続きせず、課題を途中で投げ出す生徒があり、根気よく課題に取り組むことが苦手である。 聞くことが苦手な生徒もあり、読解力不足や学んだことを発展的に応用することが苦手である。 学力の二極化が見られ、基礎学力不足が顕著な生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけるために学び方の工夫ができる。 ・正しい言葉で文章を書いたり、正確に読んだりすることができる。 ・振り返りにより、何を学んでどうわかったのかを適切に理解することができる。 ・タブレット等の正しい使用と効果的に活用して、充実した個別学習や協働学習ができる。 ・進路の目標を明確にし、具体的な学習計画を示す。 ・各課題に興味を持ち、解決するために、粘り強く取り組むことができる。	・授業の「めあて」と「振り返り」を明確にし、何を学び・何がわかったのかを的確に理解させる。 ・教員相互に授業参観する機会を設定する。 ・効果のあった発問法・指導法を共有し、授業力・指導力の向上を図る。 ・プリントなどで個別指導の充実を図る。 ・朝学習のタブレット学習で個に応じた効果的な学びの場を設定し、定期的に学習状況を把握する。 ・ICT活用と書くことを効果的に使い分ける。 ・読書活動の推進 (水曜の朝学を読書に設定する。) ・家庭学習の内容や方法を改善する。 (学びの手引き配布) ・定期テスト前に基礎基本内容を学ぶ場を設定したり、OSと連携して放課後学習を実施したりして、基礎基本の定着を図る。			

(２) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○方法や表現の仕方の例が明示されると、意欲的に取り組むことができ、自分の考えも明確に表現できるようになった。 学校行事に主体的に参加し、より充実できるように行動できている。 ●課題に対して、深く考える力や正しく理解して判断し、伝えるための表現力や語彙力が乏しい。 見通しを立てて粘り強く取り組むことが苦手な生徒が多い。	・既習事項と関連付けて他の学習や生活の場面に活用することができる。 ・自分の思いや考えを、自分の言葉でわかりやすく伝えることができる。 ・自他の意見を比較して考えを深める学習に主体的に参加できる。 ・協働学習において、生徒相互の学び合いや巻き込み効果で学習集団の底上げができる。	・多面的な協働学習を実施して、言語活動の充実と対話的で深い学びを实践できる工夫をする。 ・研究授業や相互授業参観を行う。タブレットを活用した相互の思考の可視化を図るなど、指導力の向上に努める。 ・指導法や授業スキルを共有しあい、資質の向上を図る。 ・協働学習での役割を明確にし、思考が深化し、豊かな表現力が培える学習の場を設定する。 生徒が変容した場面での見取りを意識し、指導力の向上に役立てる。			

(３) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業、実験や実習などに意欲的に参加できている。 ほとんどの生徒が、授業2分前着席など、学習規律が整っている。 ●メディアに依存しすぎる傾向にある。 話をきちんと聞く習慣や家庭学習の習慣が身に付いていない。 別室登校や不登校傾向の生徒や授業途中で離席する生徒がいる。 時間を守ったり、望ましい生活習慣が継続できない生徒がいる。 主体的・計画的に学習に取り組めない生徒がいる。	・失敗を恐れず主体的・積極的に多様な活動に取り組むことができる。 ・目標に向かって努力することに、喜びや楽しさを感じることができる。 ・PDCAサイクルによる学習プランの実行で学力を伸ばすことができる。 ・明確な進路目標を設定し、計画的に準備して行動することができる。 ・「何を学び、自分がどうわかったのか」を自覚し、自分に必要な学び方を選択できる。	・全学年「始業2分前着席」を徹底させ、始業前に準備を完了させる。 ・キャリア教育を推進し、将来に展望を持ち、具体的な目標を持って生活できるようにする。 ・ユニバーサルデザインを意識した授業実践に取り組む。 ・各自が学習内容を自分の言葉で振り返る時間を設定し、学びの定着を図る。 ・授業の途中で退席する生徒や別室対応の必要な生徒への対応(「ホットルーム」の活用)、授業配信をスムーズに実施できるように環境を整備する。 ・「わかった」「面白い」を実感できる授業実践を工夫する。 ・「振り返り」の時間を確保し、生徒が自分の学びを点検して、次に何をするのかを選択できる授業システムを整備する。 (個別最適な学びへの展開)			